

2023年度第1四半期 決算説明資料

2023年8月8日
株式会社 神戸製鋼所
証券コード 5406

KOBELCO

1. 業績総括
2. 2023年度 第1四半期業績
3. 2023年度 業績見通し
4. 参考情報

1. 業績総括

2023年度第1四半期業績 (対前年同期)

- 主要需要分野である自動車の生産台数は、**半導体不足影響の緩和**などにより前年同期比で増加したものの、調整局面にある**IT・半導体分野における需要の減少**や、建築・土木分野などの需要低迷などにより、鉄鋼・アルミ板の販売数量は減少。
- 経常利益は、鉄鋼・アルミ板での販売数量の減少、在庫評価益の剥落、建設機械でのエンジン認証問題に関する補償金収入の剥落があったものの、**鉄鋼メタルスプレッドの大幅な改善**、電力での**神戸発電所4号機の稼働**や**燃料費調整の時期ずれ影響の改善**などにより、**前年同期比59億円増益の359億円**。

2023年度通期業績見通し (対前回見通し)

- 事業環境は、前回見通しと比較して、**IT・半導体分野の需要回復の遅れ**や、中国でのEV化進展等に伴う**日系自動車メーカーの海外生産の減少**など、需要面では厳しい状況にある一方、エネルギー価格の下落などに伴う**調達コストの改善**を見込む。
- **経常利益**は、**素材系事業での販売数量の減少**があるものの、鉄鋼メタルスプレッドの維持・改善、アルミ板・素形材・建設機械での**調達コストの改善と販売価格改善の進展**、電力での一般炭価格の下落に伴う**燃料費調整の時期ずれ影響の改善**などにより、**前回見通し比 150億円増益の1,450億円 (ROIC6.7%)**程度の見通し。
- **親会社株主に帰属する当期純利益**は、経常利益の増益に加え、子会社における固定資産の譲渡益の増加などもあり、**前回見通し比 200億円増益の1,200億円程度と、過去最高益を更新**する見通し。

(単位：億円)

	2022年度実績		2023年度 見通し(前回)	2023年度見通し(今回)		前年度比増減		前回比増減
	1Q	通期		1Q実績	通期	1Q	通期	通期
	①	②		④	⑤	④－①	⑤－②	⑤－③
売上高	5,428	24,725	26,800	5,986	25,900	+558	+1,175	△900
営業損益	80	863	1,500	340	1,650	+259	+787	+150
鉄鋼アルミ	134	419	350	85	330	△49	△89	△20
素形材	21	9	60	8	35	△12	+26	△25
溶接	2	28	40	5	40	+2	+12	－
機械	※1 12	※1 157	190	43	220	+30	+62	+30
エンジニアリング	9	41	80	15	80	+5	+39	－
建設機械	92	123	100	14	130	△77	+7	+30
電力	0	245	550	173	660	+173	+415	+110
その他	※1 17	※1 48	40	13	45	△3	△3	+5
調整額	8	△7	△110	0	△90	△8	△83	+20
経常損益	299	1,068	1,300	359	1,450	+59	+382	+150
在庫評価影響を除く	79	828	1,300	369	1,460	+289	+632	+160
特別損益	－	△87	※2 160	－	※2 270	－	+357	+110
親会社株主に帰属する 当期純損益	210	725	1,000	254	1,200	+44	+474	+200

※1 (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。これに伴い、対比元の2022年度実績の業績数値を再集計。

※2 子会社における固定資産の譲渡益。(8月4日プレスリリース資料参照)
前回見通し時には本件、非開示であったが、同160億円にて親会社株主に帰属する当期純損益の見通しを想定。

（ ）は需要変動の影響を受けるユニット

自動車

（鉄鋼、アルミ板、アルミ押出、サスペンション、銅板、鉄粉、溶接）

- 国内生産は、半導体不足影響の緩和による増加が見込まれる一方、中国でのEV化進展等に伴う**日系自動車メーカーの海外生産の減少**により、**前环比微増**にて想定。

《日系自動車メーカー生産台数（海外含む）の想定》

* 2019年度平均比

	2022年度実績				2023年度前回				2023年度今回			
	1Q	2Q	下期	年度	1Q	2Q	下期	年度	1Q	2Q	下期	年度
増減率	△22%	△10%	△12%	△14%	△14%	△13%	△8%	△11%	△14%	△9%	△7%	△9%

IT・半導体

（アルミ板、アルミ鋳鍛、銅板）

- 前回見通しでは、2023年度下期での本格回復を想定していたものの、**需要回復の遅れが顕在化**。特に、**ディスク材**については、データセンター向け投資の低迷、お客様での在庫調整の長期化により、**前环比で大幅に減少**。

造船

（鉄鋼、鋳鍛鋼、溶接）

- **前回並み**（中長期の需要は堅調に推移。2023年度の竣工量は、人手不足が顕在化する中、概ね2022年度並み）

航空機

（チタン、アルミ鋳鍛）

- **前回並み**（需要は回復基調にあり、中長期的には堅調な伸びを想定）

飲料用缶

（アルミ板）

- **前回並み**（人流の増加に伴って需要は回復し、堅調に推移すると想定）

建築・土木

（鉄鋼、溶接）

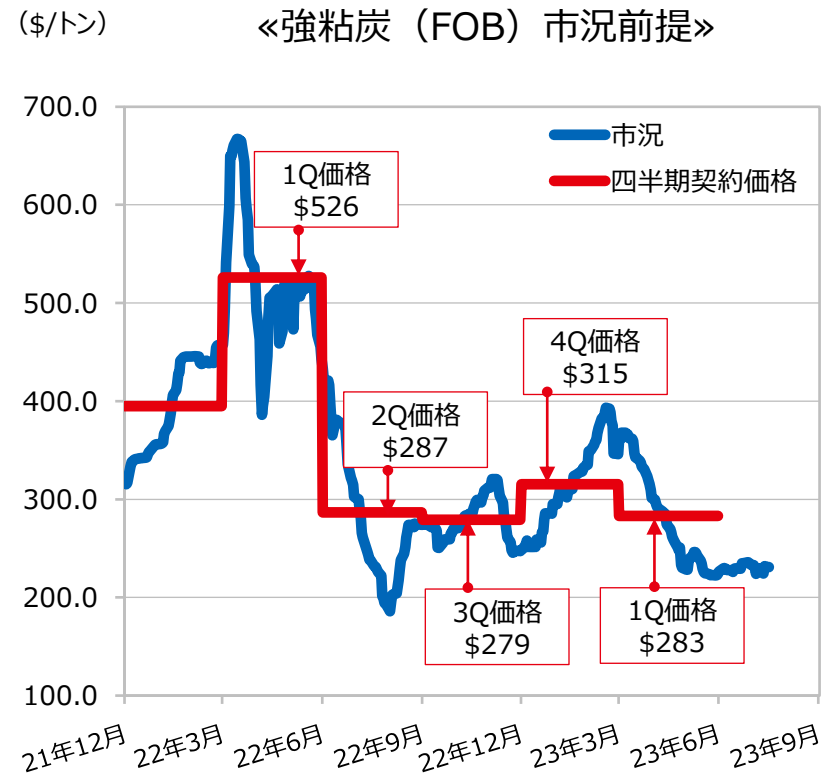
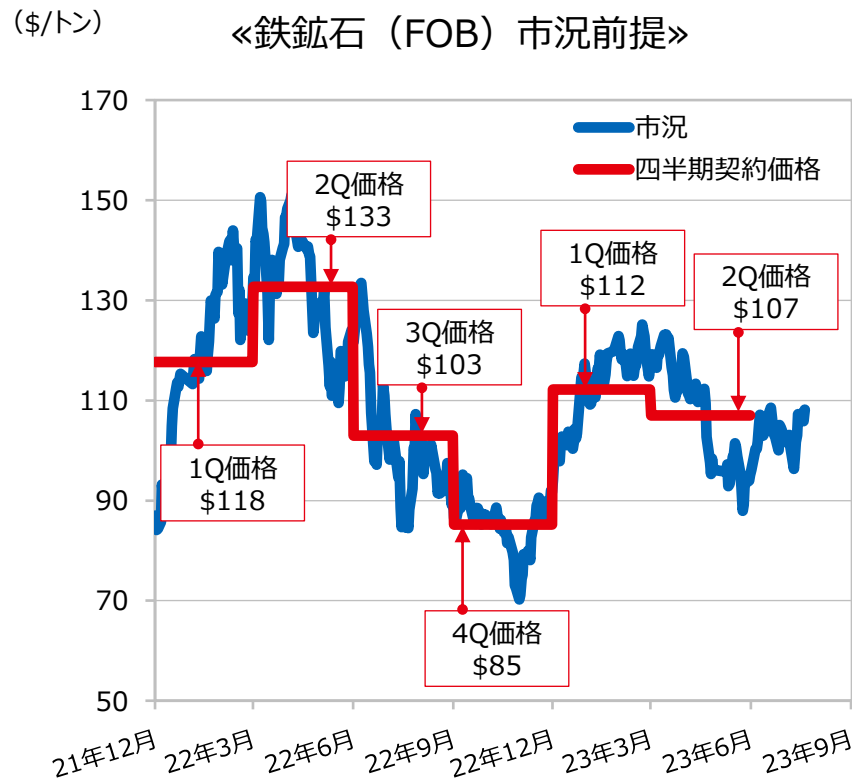
- 人手不足から工期の後ろ倒しが続いており、**前环比で減少**。

鉄鉱石： 2Q価格は\$107で決着済み。下期価格は**上期並み**の水準にて想定。

強粘炭： 1Q価格は\$283で決着済み。2Q価格は足元市況を考慮して想定し、下期価格は**足元市況からの一定程度の反転**を想定。

一般炭： 4月の市況は\$170～\$200で推移していたが、5月以降、**市況は更に下落基調**となり、7月は\$120～\$140で推移。2Q以降の価格は**足元市況**をベースに想定。

原料市況



- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮して決定することとしております。
- これまで配当性向につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の**15%～25%を目安**としておりましたが、株主の皆様への利益還元の更なる充実のため、**当期より配当性向を「同30%程度を目安」**に変更することを本日の取締役会で決議いたしました。
- また、当期の配当につきましては、本配当性向の変更も踏まえ、**中間配当は1株につき45円、期末配当は同45円（年間：90円）**とする方針を同取締役会で決議いたしました。

	2022年度			2023年度		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額（円/株）	15	25	40	45	45	90
配当性向			21.8%			29.6%

2. 2023年度 第1四半期業績

【売上高】 5,986億円（前年同期比+558億円）

- 素材系事業や建設機械における販売価格改善の進展、機械・エンジニアリングでの受注案件の進捗、電力での神戸発電所4号機の稼働などにより増収

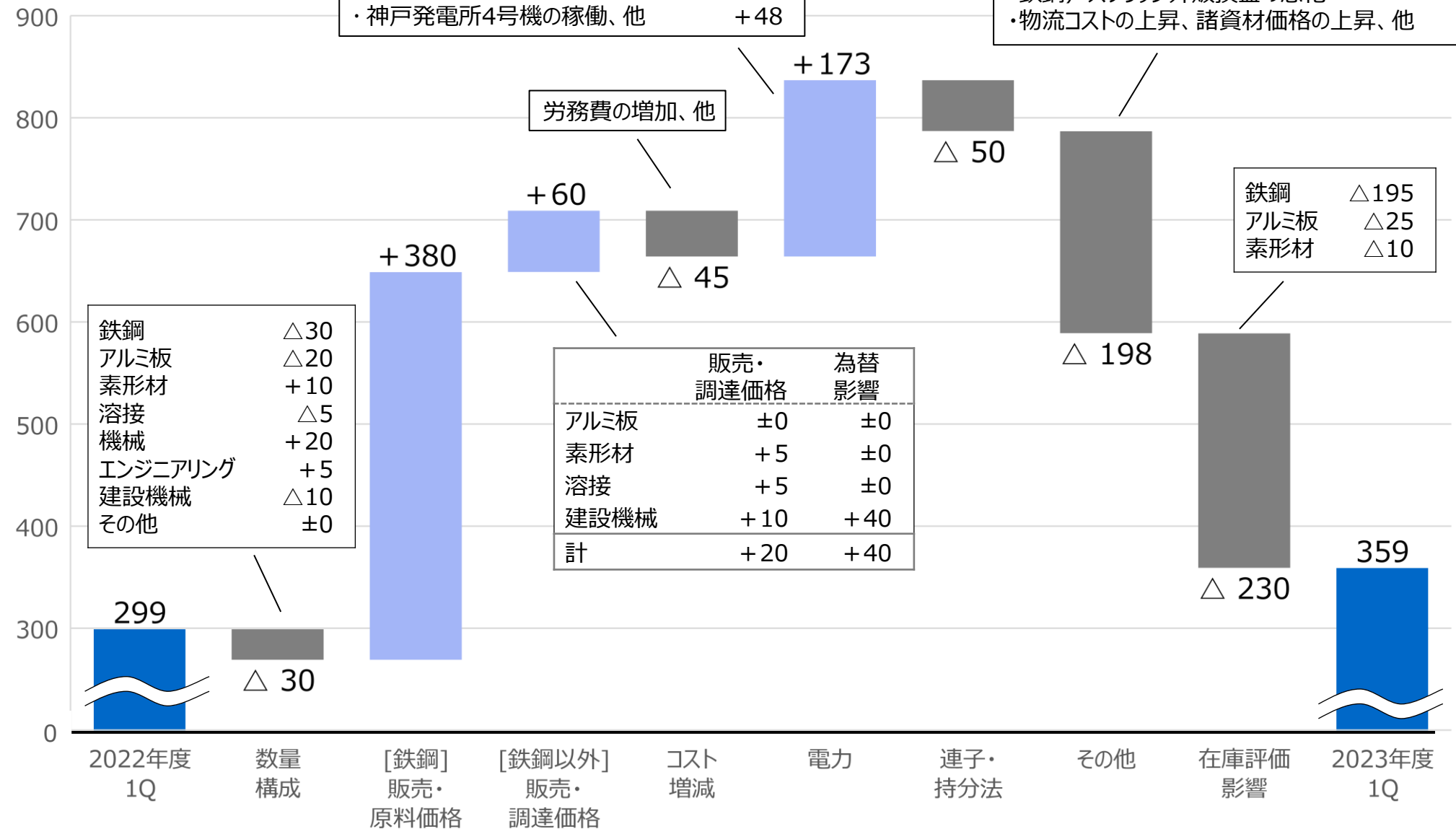
【経常損益】 359億円（前年同期比+59億円）

- 鉄鋼・アルミ板での販売数量の減少、在庫評価益の剥落、建設機械でのエンジン認証問題に関する補償金収入の剥落があったものの、鉄鋼メタルスプレッドの大幅な改善（原料炭価格の下落と販売価格改善の進展）、機械での売上高の増加、電力での神戸発電所4号機の稼働や燃料費調整の時期ずれ影響の改善などにより増益

（単位：億円）

	2022年度 1Q ①	2023年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	5,428	5,986	+558
営業損益	80	340	+259
経常損益	299	359	+59
在庫評価影響を除く	79	369	+289
特別損益	-	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損益	210	254	+44

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2022年度 1Q ①	2023年度 1Q ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	2,587	2,684	+96
素形材	657	692	+34
溶接	205	229	+23
機械 ※	385	500	+114
エンジニアリング	287	349	+62
建設機械	869	883	+14
電力	572	781	+208
その他 ※	18	24	+5
調整額	△156	△158	△1
合計	5,428	5,986	+558

【経常損益】

(単位：億円)

	2022年度 1Q ③	2023年度 1Q ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	134	85	△49
素形材	21	8	△12
溶接	2	5	+2
機械 ※	12	43	+30
エンジニアリング	9	15	+5
建設機械	92	14	△77
電力	0	173	+173
その他 ※	17	13	△3
調整額	8	0	△8
合計	299	359	+59

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計。

(単位：億円)

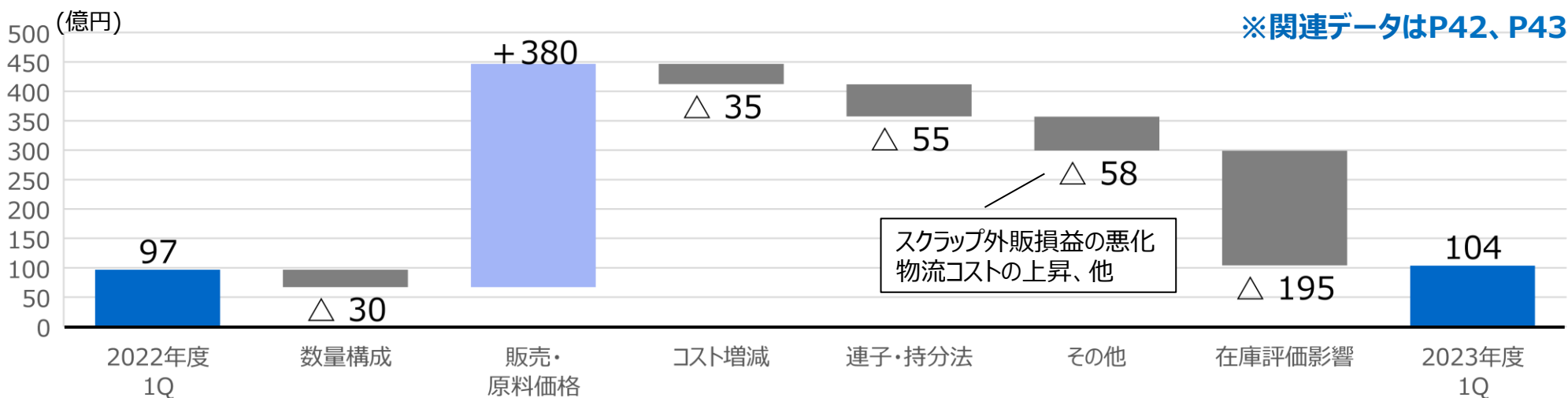
		2022年度 1Q ①	2023年度 1Q ②	増減 ②-①
鉄鋼	売上高	2,103	2,186	+83
	経常損益	97	104	+7
	在庫評価影響を除く	△62	139	+202
アルミ板	売上高	484	498	+13
	経常損益	37	△19	△56
	在庫評価影響を除く	△2	△34	△31
合計	売上高	2,587	2,684	+96
	経常損益	134	85	△49
	在庫評価影響を除く	△65	105	+170

鉄
鋼

【売上高】 2022年度1Q：2,103億円 → 2023年度1Q：2,186億円（前年同期比+83億円）

【経常損益】2022年度1Q： 97億円 → 2023年度1Q： 104億円（前年同期比+ 7億円）

- 粗鋼生産：157万t（前年同期比△2万t）
- 販売数量：119万t（前年同期比△7万t）
 - ・自動車向けは需要回復に伴い増加の一方、自動車向け以外の需要減などにより減少
- 販売価格：139,200円/t（前年同期比+12,700円/t）
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・鉄鋼メタルスプレッドの改善（原料炭価格の下落と販売価格改善の進展）
 - ・労務費などの固定費を中心としたコストの増加
 - ・米国関係会社の業績悪化
 - ・在庫評価益の剥落



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】 2022年度1Q：484億円 → 2023年度1Q：498億円（前年同期比+13億円）

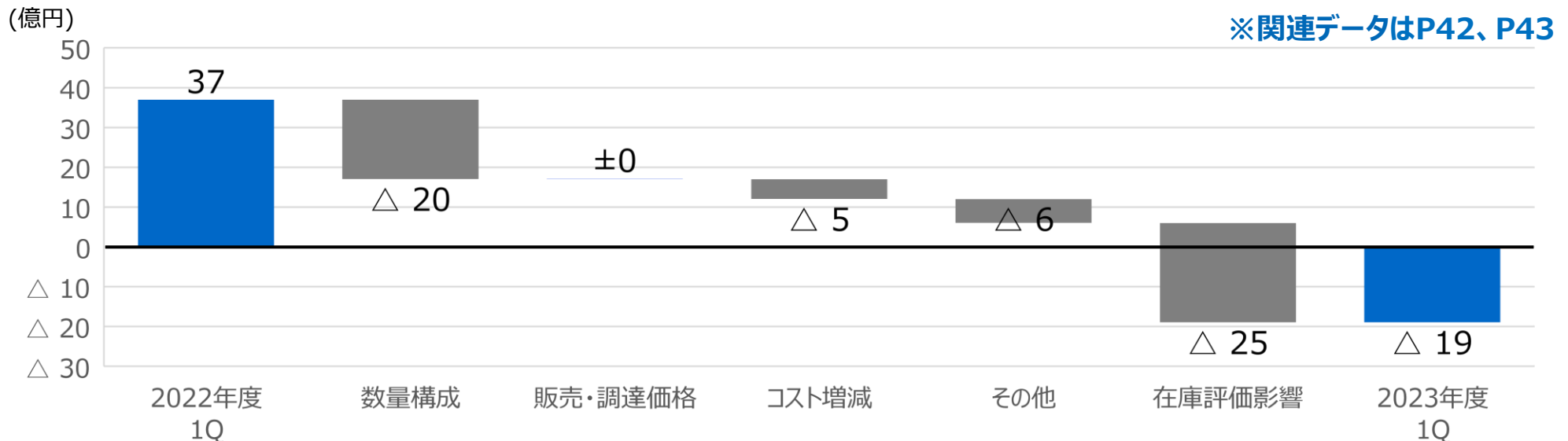
【経常損益】2022年度1Q：37億円 → 2023年度1Q：△19億円（前年同期比△56億円）

■ 販売数量：84千t（前年同期比△2千t）

- 飲料用缶材向け：概ね前年同期並み
- 自動車向け：アルミパネル需要の拡大に伴い増加
- IT・半導体向け：半導体製造装置向け厚板、データセンター向けディスク材ともに、需要の調整局面を受けて大幅に減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少（主にIT・半導体向けの減少影響）
- 労務費などの固定費を中心としたコストの増加
- 在庫評価益の縮小



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2022年度 1Q ①	2023年度 1Q ②
売上高	657	692
経常損益	21	8
在庫評価影響を除く	1	△1

(単位：億円)

増減 ②-①
+34
△12
△2

※関連データはP42、P43

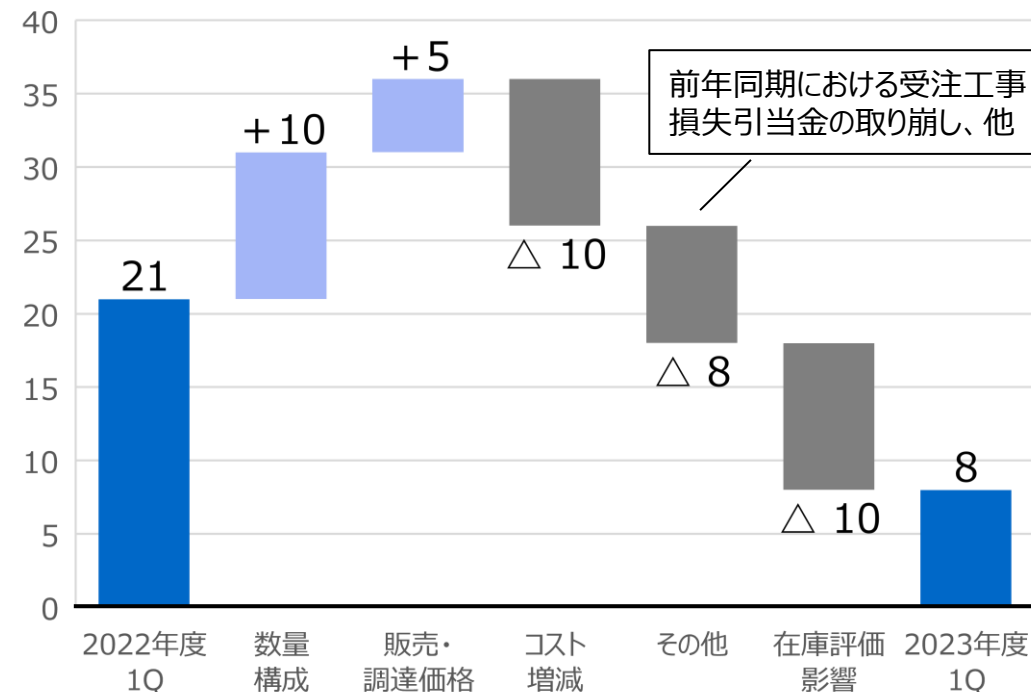
■ 販売数量

- 造船向け需要の取り込みにより、鋳鍛鋼で増加
- 一般産業向け需要の回復により、チタンで増加
- 自動車向け需要の回復などにより、サスペンションで増加
- IT・半導体向け需要の減少により、銅板、アルミ鋳鍛で減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の増加
- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展
- 労務費などの固定費を中心としたコストの増加
- 在庫評価益の縮小

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度 1Q ①	2023年度 1Q ②
売上高	205	229
経常損益	2	5

増減 ②-①
+23
+2

※関連データはP42

■ 販売数量

国内：前年同期並み

海外：東南アジアでの需要回復遅れにより減少

■ 損益変動要因

- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展
- 販売数量の減少

(単位：億円)

	2022年度 1Q ① ※	2023年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	385	500	+114
経常損益	12	43	+30
受注高	571	514	△57

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度1Q実績数値を再集計。

■ 受注高

- 石油化学・エネルギー向けを中心に堅調に推移
- 樹脂機械で大型案件を受注した前年同期と比較すると減少

■ 損益変動要因

- 売上高の増加
- 堅調な需要を受けた受注採算の改善

(単位：億円)

	2022年度 1Q ①	2023年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	287	349	+62
経常損益	9	15	+5
受注高	446	843	+397

■ 受注高

- 還元鉄関連事業で海外大型案件を受注したことや、廃棄物処理関連事業での堅調な受注などにより増加

■ 損益変動要因

- 廃棄物処理関連事業を中心とした案件構成差

	2022年度 1Q ①	2023年度 1Q ②
売上高	869	883
経常損益	92	14

(単位：億円)

増減 ②-①
+14
△77

※関連データはP42

■ 販売台数

[油圧ショベル]

- ・欧州でのエンジン認証問題などにより微減

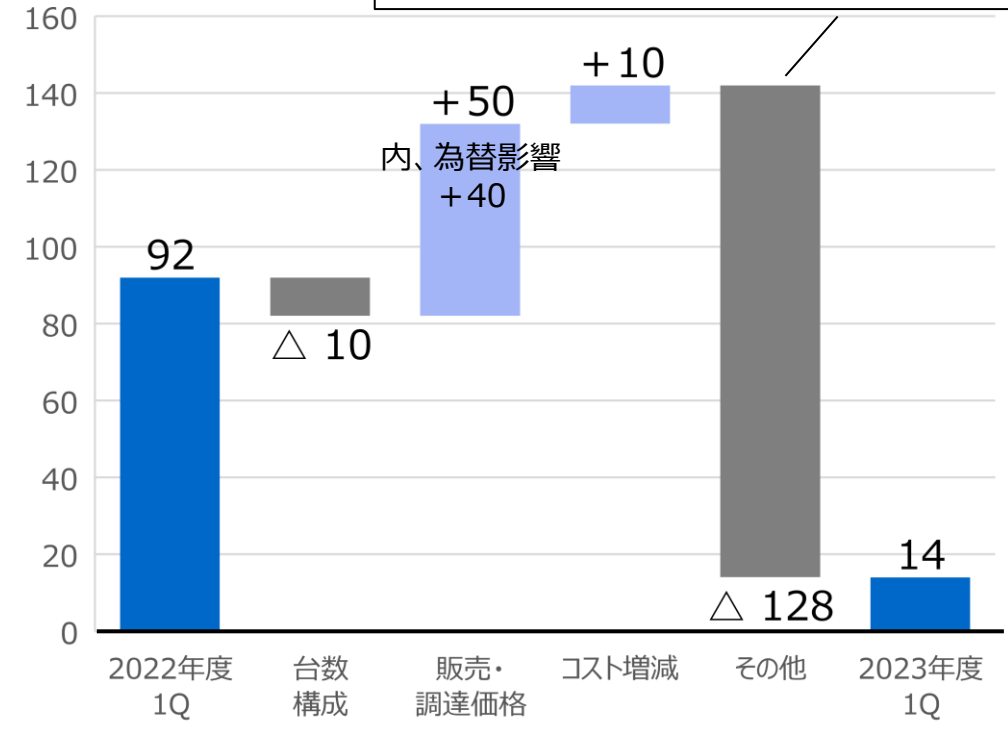
[クローラクレーン]

- ・欧州でのエンジン認証問題や生産・出荷のずれなどにより減少

■ 損益変動要因

- ・販売数量の減少
- ・調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展
- ・対ドル、ユーロでの円安による輸出採算の改善
- ・エンジン認証問題に関する補償金収入の剥落

(億円)



・エンジン認証問題に関する補償金収入の剥落
・物流コストの増加、他

(単位：億円)

	2022年度 1Q ①	2023年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	572	781	+208
経常損益	0	173	+173

■ 販売電力量

- 4号機（2023年2月に営業運転開始）の稼働に伴い増加

■ 販売単価

- 発電用石炭価格は前年同期比下落したものの、燃料費調整の時期ずれ影響により上昇

■ 損益変動要因

- 神戸発電所4号機の稼働
- 神戸発電所1～4号機における売電価格に関する一過性影響の解消
- 神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれ影響の改善

3. 2023年度 業績見通し

【売上高】 前回：2兆6,800億円 → 今回：2兆5,900億円（前回比△900億円）

- 素材系事業での販売数量の減少、電力での一般炭価格下落に伴う販売電力単価の下落により減収

【経常損益】 前回：1,300億円 → 今回：1,450億円（前回比+150億円）

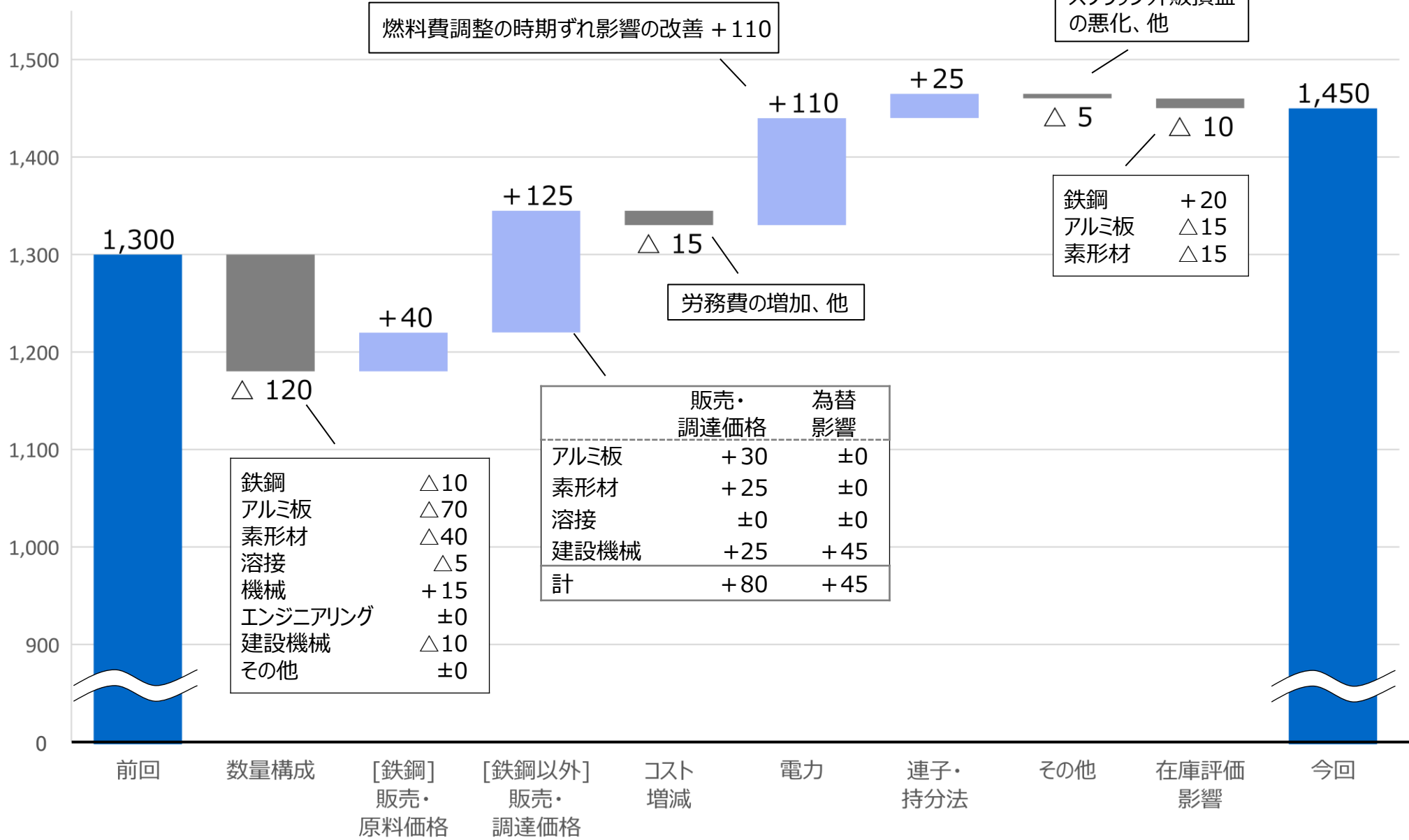
- 素材系事業での販売数量の減少
- 鉄鋼メタルスプレッドの維持・改善
- アルミ板・素形材・建設機械での調達コストの改善と販売価格改善の進展
- 建設機械での円安による輸出採算の改善
- 電力での一般炭価格下落に伴う燃料費調整の時期ずれ影響の改善

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し（前回）			2023年度見通し（今回）			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	11,696	13,028	24,725	13,200	13,600	26,800	12,700	13,200	25,900	△900
営業損益	197	665	863	550	950	1,500	800	850	1,650	+150
経常損益	418	650	1,068	450	850	1,300	700	750	1,450	+150
在庫評価影響を除く	193	635	828	490	810	1,300	710	750	1,460	+160
特別損益	△26	△61	△87	160	—	※ 160	270	—	※ 270	+110
親会社株主に帰属する 当期純損益	280	445	725	400	600	1,000	650	550	1,200	+200

※ 子会社における固定資産の譲渡益。（8月4日プレスリリース資料参照）
 前回見通し時には本件、非開示であったが、同160億円にて親会社株主に帰属する当期純損益の見通しを想定。

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
鉄鋼アルミ	5,365	5,686	11,051	5,600	5,650	11,250	5,450	5,450	10,900	△350
素形材	1,331	1,446	2,777	1,620	1,700	3,320	1,490	1,700	3,190	△130
溶接	421	462	884	450	470	920	450	480	930	+10
機械 ※	927	1,106	2,034	1,130	1,350	2,480	1,070	1,350	2,420	△60
エンジニアリング	611	840	1,452	780	900	1,680	780	920	1,700	+20
建設機械	1,837	1,979	3,817	2,190	2,300	4,490	2,050	2,300	4,350	△140
電力	1,475	1,768	3,243	1,700	1,480	3,180	1,610	1,240	2,850	△330
その他 ※	42	66	109	50	80	130	50	70	120	△10
調整額	△317	△328	△646	△320	△330	△650	△250	△310	△560	+90
合計	11,696	13,028	24,725	13,200	13,600	26,800	12,700	13,200	25,900	△900

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計。

【経常損益】

（単位：億円）

	2022年度実績			2023年度見通し（前回）			2023年度見通し（今回）			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
鉄鋼アルミ	223	196	419	20	330	350	110	220	330	△20
素形材	14	△5	9	15	45	60	△5	40	35	△25
溶接	8	19	28	15	25	40	15	25	40	-
機械 ※	50	107	157	65	125	190	80	140	220	+30
エンジニアリング	9	32	41	10	70	80	50	30	80	-
建設機械	100	23	123	10	90	100	30	100	130	+30
電力	△13	259	245	320	230	550	410	250	660	+110
その他 ※	24	24	48	25	15	40	20	25	45	+5
調整額	1	△8	△7	△30	△80	△110	△10	△80	△90	+20
合計	418	650	1,068	450	850	1,300	700	750	1,450	+150

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計。

(単位：億円)

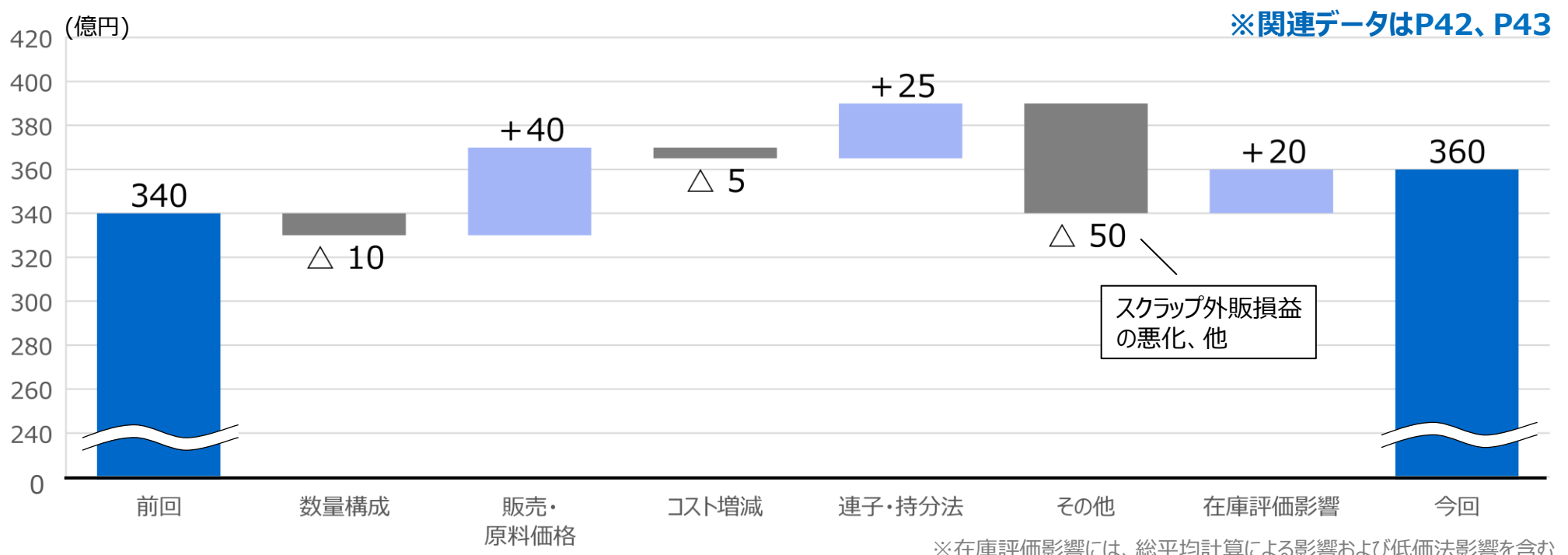
		2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
		上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
鉄鋼	売上高	4,383	4,713	9,097	4,630	4,570	9,200	4,550	4,450	9,000	△200
	経常損益	210	279	490	50	290	340	160	200	360	+20
	在庫評価影響を除く	60	274	335	120	270	390	185	205	390	-
アルミ板	売上高	981	972	1,954	970	1,060	2,030	900	970	1,870	△160
	経常損益	12	△83	△70	△30	40	10	△50	20	△30	△40
	在庫評価影響を除く	△42	△83	△125	△50	20	△30	△60	5	△55	△25
合計	売上高	5,365	5,686	11,051	5,600	5,650	11,250	5,450	5,450	10,900	△350
	経常損益	223	196	419	20	330	350	110	220	330	△20
	在庫評価影響を除く	18	191	210	70	290	360	125	210	335	△25

鉄
鋼

【売上高】 前回：9,200億円 → 今回：9,000億円（前回比△200億円）

【経常損益】 前回：340億円 → 今回：360億円（前回比+ 20億円）

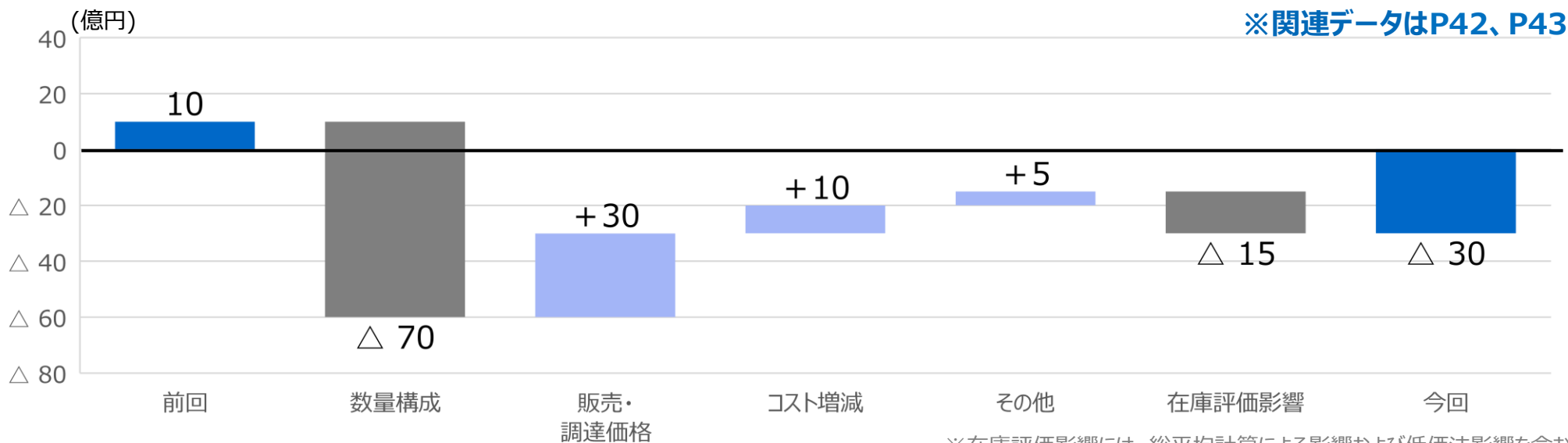
- 粗鋼生産：610万t程度（前回比△10万t）
- 販売数量：490万t程度（前回比△10万t）
 - ・自動車向けは増加を見込むものの、自動車向け以外の需要減などにより減少
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・鉄鋼メタルスプレッドの改善（上期での原料炭価格の下落影響、他）
 - ・米国関係会社の業績改善



【売上高】 前回：2,030億円 → 今回：1,870億円（前回比△160億円）

【経常損益】 前回： 10億円 → 今回： △30億円（前回比△ 40億円）

- 販売数量：350千t程度（前回比△20千t程度）
 - 飲料用缶材向け：当社受注製品の需要減などにより減少
 - 自動車向け：中国でのアルミパネル材の需要減などにより減少
 - IT・半導体向け：半導体製造装置向け厚板は需要回復の遅れにより減少
データセンター向けディスク材は在庫調整の長期化により減少
- 損益変動要因
 - 販売数量の減少
 - 調達コストの改善（エネルギー価格の下落）と販売価格改善の進展
 - 省エネ・合理化によるコストダウンの推進
 - 在庫評価益の縮小



(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し（前回）			2023年度見通し（今回）			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	1,331	1,446	2,777	1,620	1,700	3,320	1,490	1,700	3,190	△130
経常損益	14	△5	9	15	45	60	△5	40	35	△25
在庫評価影響を除く	△5	△15	△21	5	45	50	△10	50	40	△10

※関連データはP42、P43

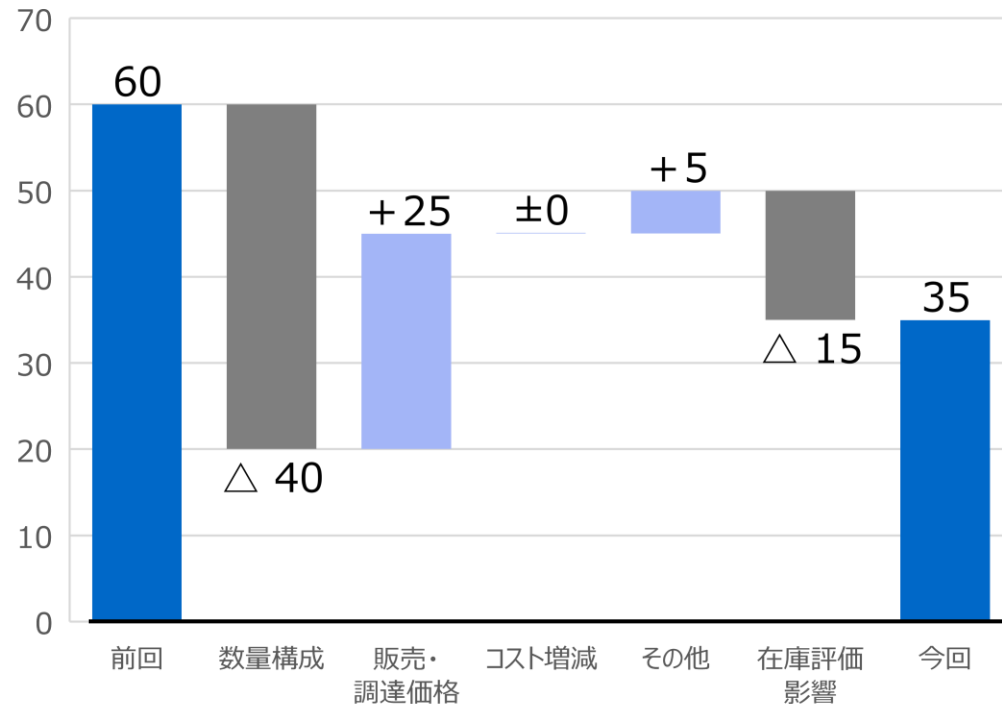
■ 販売数量

- 中国での日系自動車向け需要減や、お客様での在庫調整などにより、アルミ押出、サスペンション、銅板、鉄粉で減少
- IT・半導体向け需要の回復遅れにより、銅板、アルミ鋳鍛で減少
- 鋳鍛鋼、チタンは堅調に推移

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少
- 調達コストの改善（エネルギー価格の下落）と販売価格改善の進展
- 在庫評価影響の悪化

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し（前回）			2023年度見通し（今回）			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	421	462	884	450	470	920	450	480	930	+10
経常損益	8	19	28	15	25	40	15	25	40	-

※関連データはP42

■ 販売数量

国内：前回見通し並み

海外：中国・東南アジアでの需要減により減少

■ 損益変動要因

・前回見通し並み

(単位：億円)

	2022年度実績 ※			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	927	1,106	2,034	1,130	1,350	2,480	1,070	1,350	2,420	△60
経常損益	50	107	157	65	125	190	80	140	220	+30
受注高	1,194	1,464	2,659	1,300 程度	1,250 程度	2,550 程度	1,300 程度	1,250 程度	2,550 程度	-

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計。

■ 受注高

- 引き続き高水準の受注高を計画

■ 損益変動要因

- 堅調な需要を受けた受注採算の改善
- サービス案件の増加

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	611	840	1,452	780	900	1,680	780	920	1,700	+20
経常損益	9	32	41	10	70	80	50	30	80	-
受注高	772	802	1,575	950 程度	900 程度	1,850 程度	1,100 程度	800 程度	1,900 程度	+50 程度

■ 受注高

- 還元鉄関連事業における複数案件の受注を見込んでおり、概ね前回見通し並み

■ 損益変動要因

- 前回見通し並み

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	1,837	1,979	3,817	2,190	2,300	4,490	2,050	2,300	4,350	△140
経常損益	100	23	123	10	90	100	30	100	130	+30

※関連データはP42

■ 販売台数

[油圧ショベル]

- ・国内は微増の一方、中国は需要減少と競争激化などにより減少

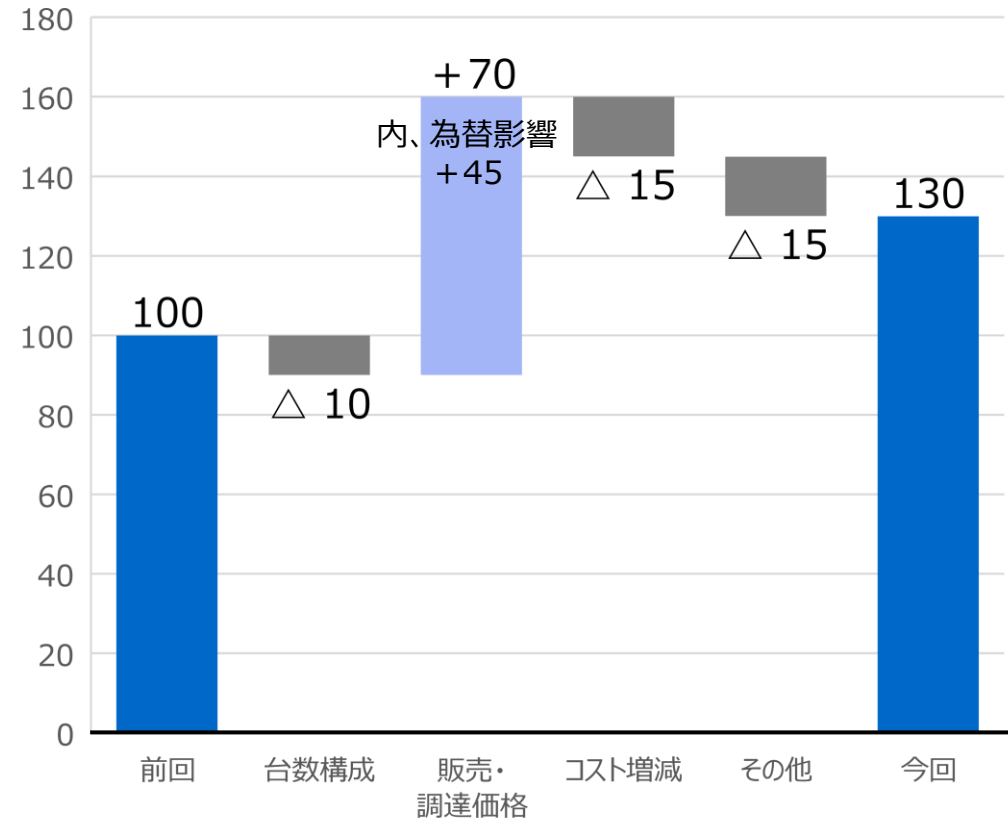
[クローラクレーン]

- ・オセアニアでの販売増などにより増加

■ 損益変動要因

- ・販売台数の減少
- ・調達コストの改善と販売価格改善の進展
- ・円安による輸出採算の改善
- ・労務費などの固定費を中心としたコストの増加

(億円)



(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	1,475	1,768	3,243	1,700	1,480	3,180	1,610	1,240	2,850	△330
経常損益	△13	259	245	320	230	550	410	250	660	+110

■ 販売電力量

- 前回見通し並み

■ 販売単価

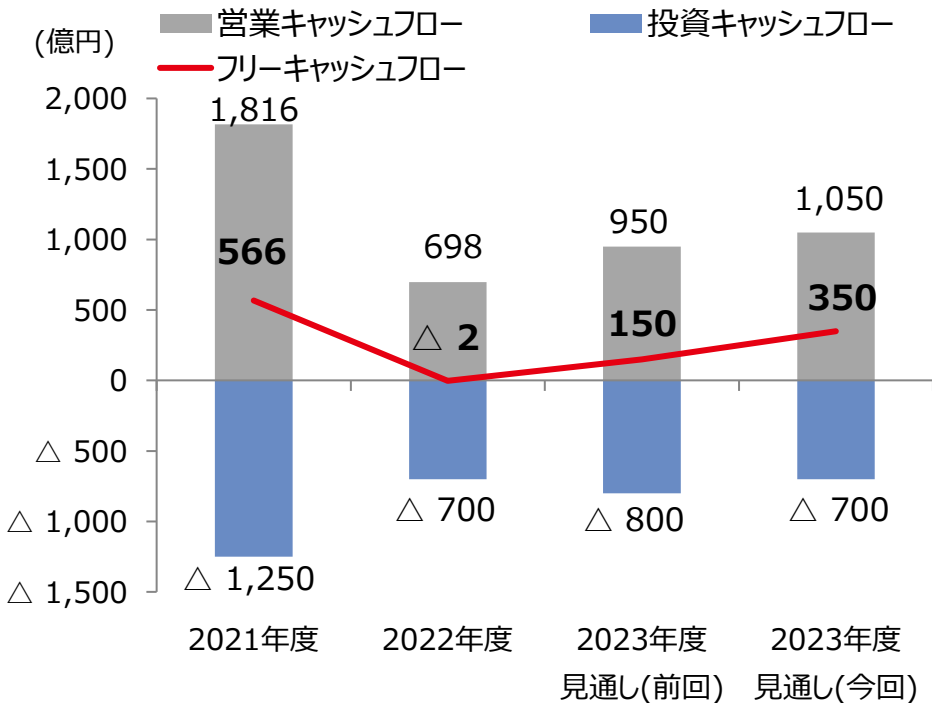
- 発電用石炭価格の下落に伴い下落

■ 損益変動要因

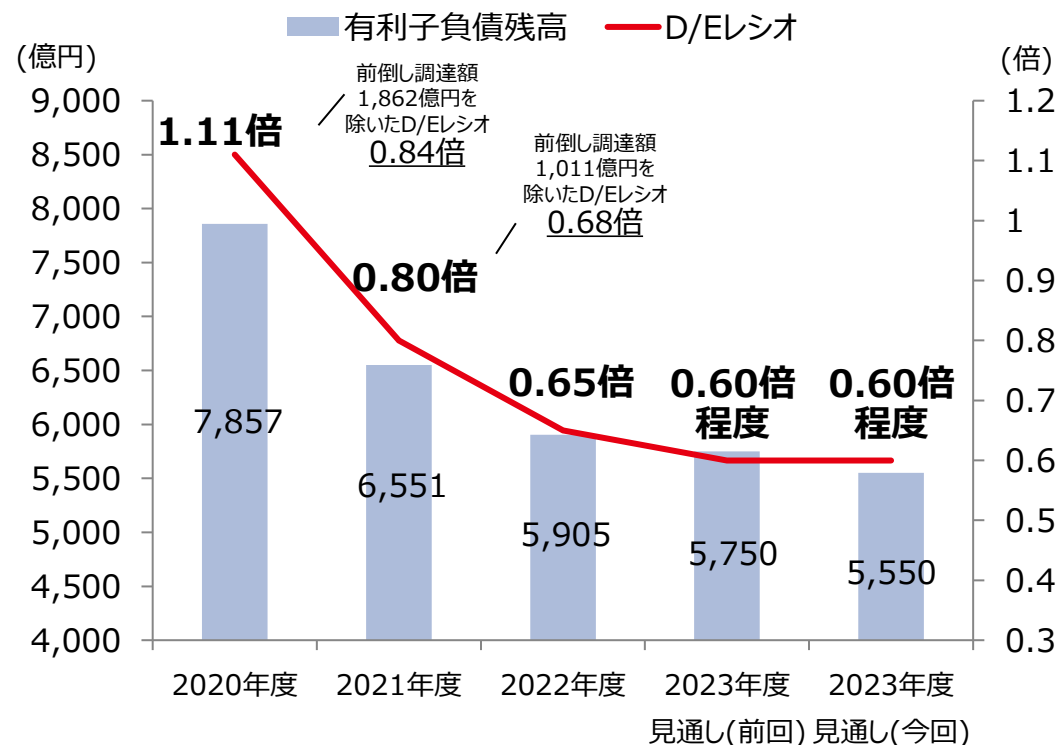
- 神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれ影響の改善

- 2023年度の営業キャッシュフローは、**素材系事業における販売数量の減少**に伴う棚卸資産の高止まりや、機械・エンジニアリングにおける**受注高の増加に伴う運転資本の増加**などを受けて、2022年度に引き続き低水準に留まる見通しであるが、ROIC管理における重要KPIの設定を通じた**投下資本の管理強化を継続し、運転資本の改善**に取り組んでいる。
- フリーキャッシュフローについては、子会社における固定資産の売却額の増加などもあり、前回見通し比200億円改善の350億円程度の見通し。

《フリーキャッシュフロー》



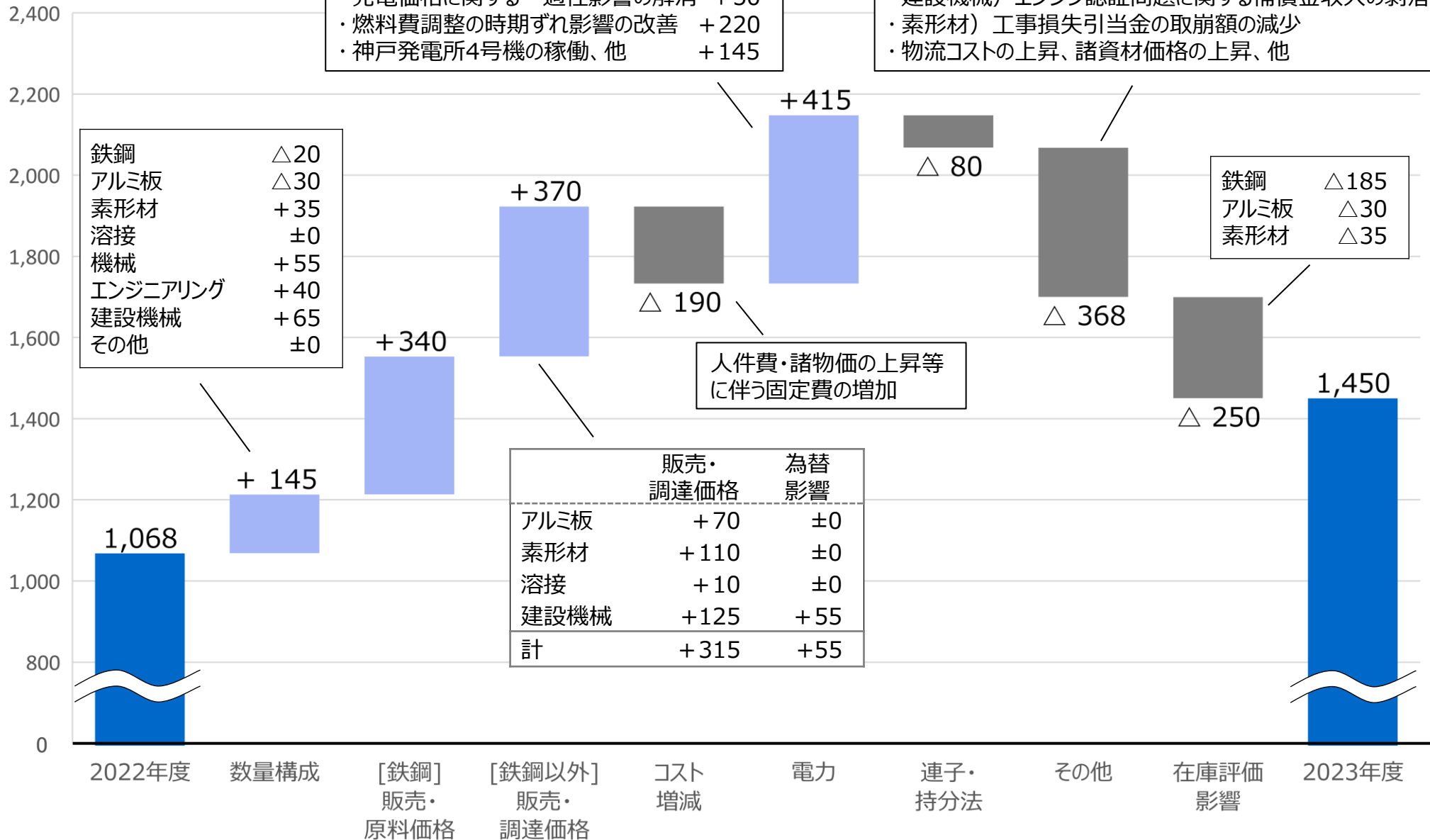
《有利子負債残高・D/Eレシオ》



※フリーキャッシュフローおよびD/Eレシオに、プロジェクトファイナンスは含まない

4. 参考情報

(億円)

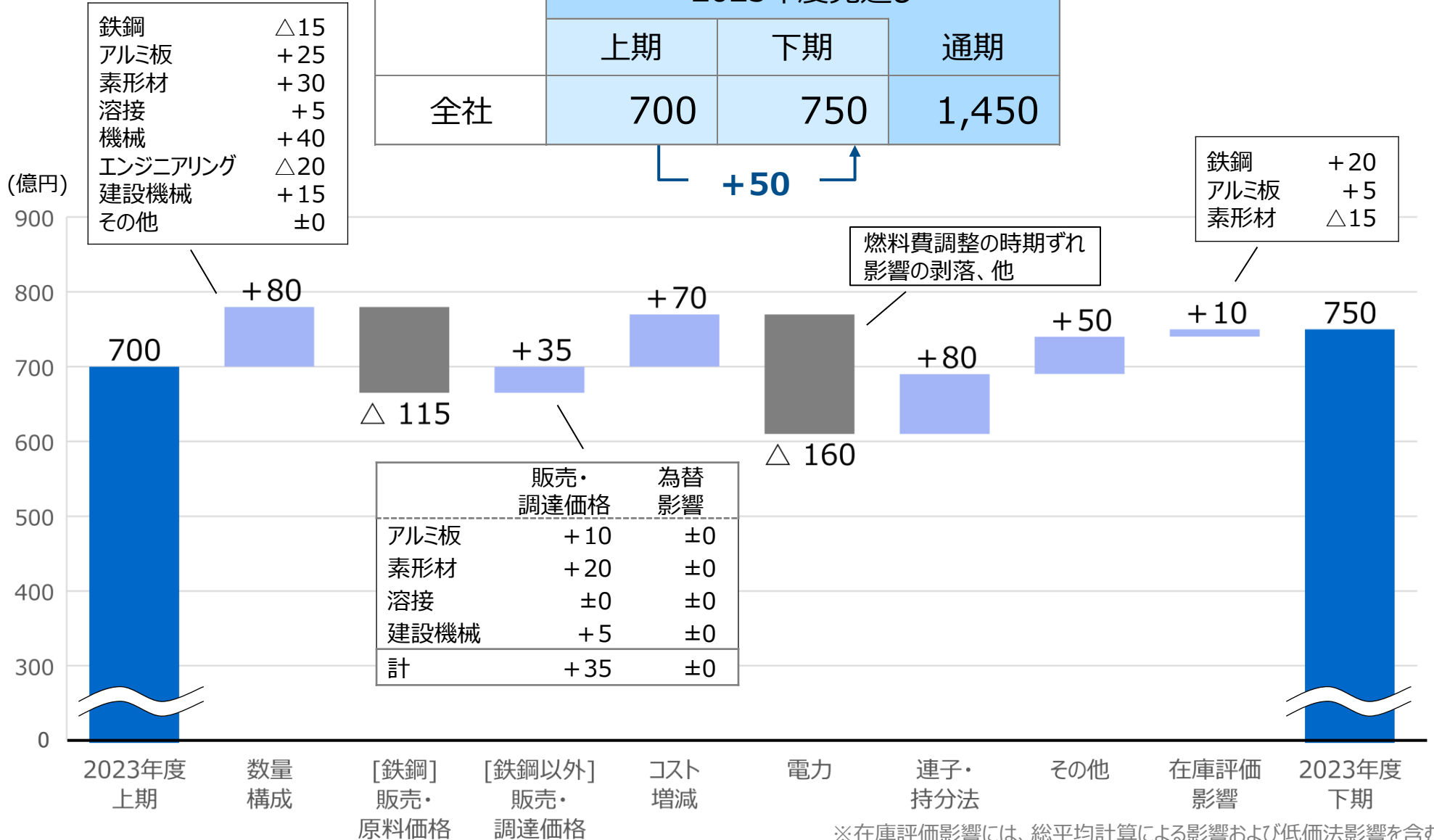


※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【全社 経常損益】

（単位：億円）

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
全社	700	750	1,450



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【鉄鋼 経常損益】

(単位：億円)

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
鉄鋼	160	200	360

+40

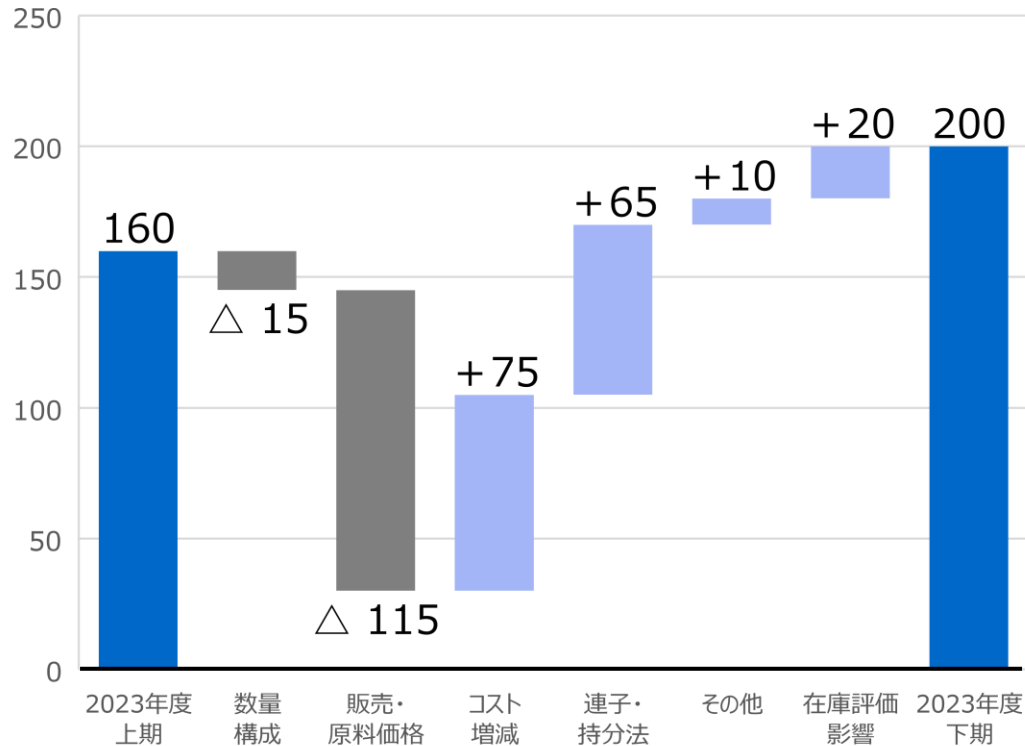
【アルミ板 経常損益】

(単位：億円)

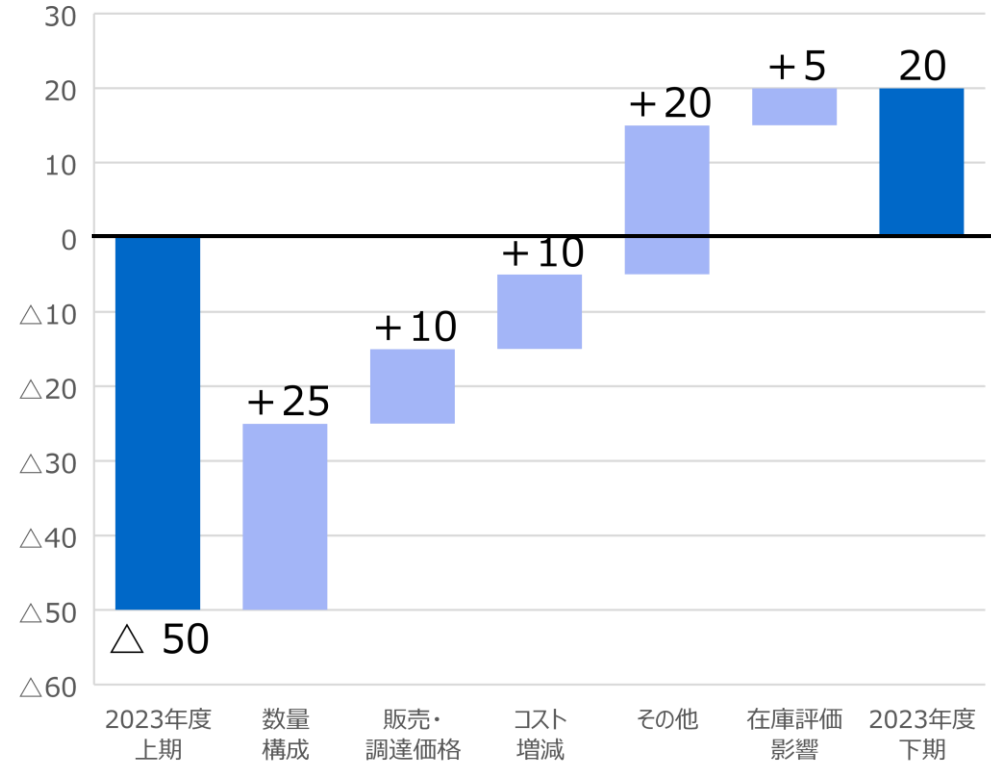
	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
アルミ板	△50	20	△30

+70

(億円)



(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

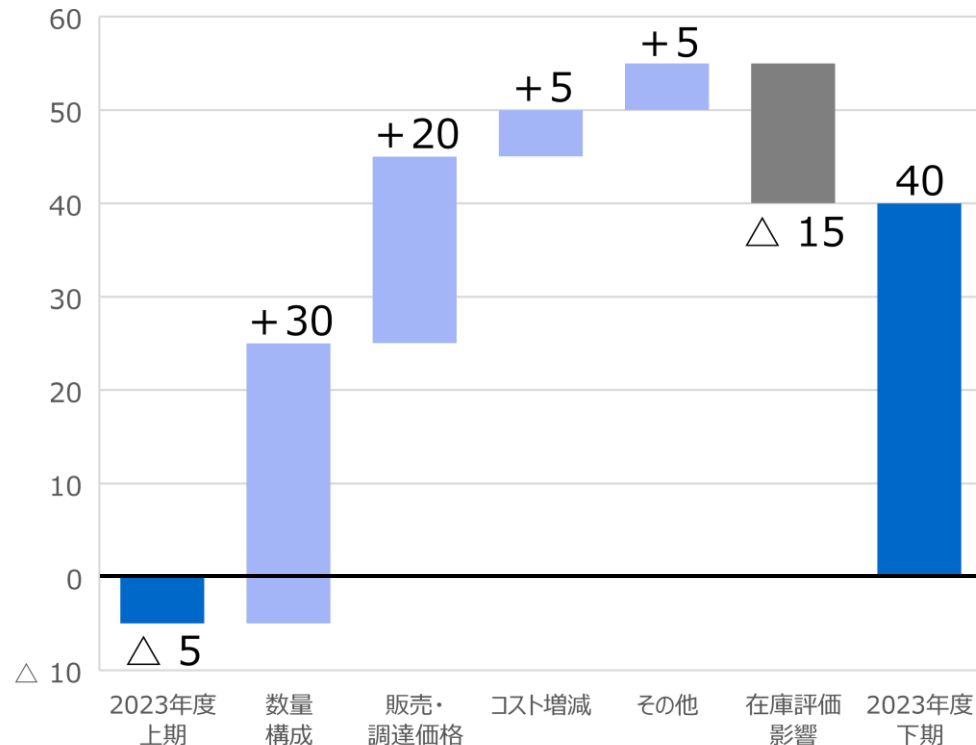
【素形材 経常損益】

（単位：億円）

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
素形材	△5	40	35

+45

（億円）



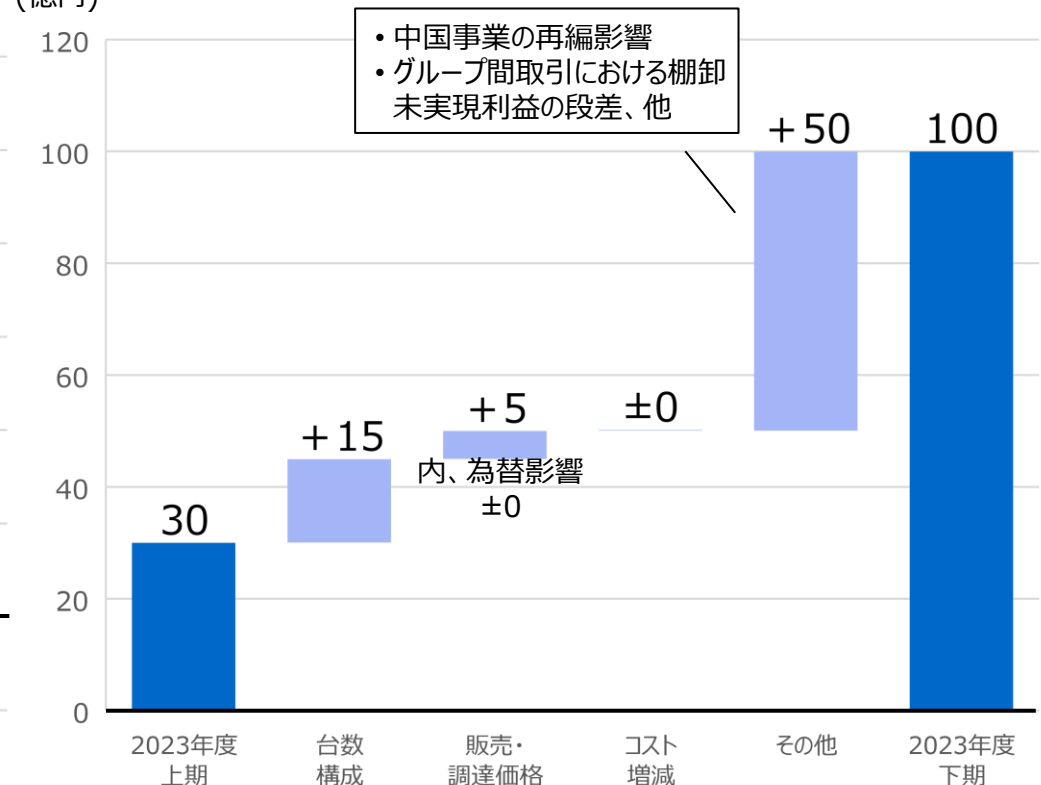
【建設機械 経常損益】

（単位：億円）

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
建設機械	30	100	130

+70

（億円）



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2022年度実績			2023年度見通し(前回)		2023年度見通し(今回)		
	1Q	上期	通期	上期	通期	1Q	上期	通期
粗鋼生産量 ※1 [万t]	159	315	619	320程度	620程度	157	310程度	610程度
鋼材 販売数量 ※2 [万t]	126	250	498	250程度	500程度	119	240程度	490程度
(国内)	(97)	(192)	(385)	(190程度)	(375程度)	(92)	(185程度)	(370程度)
(輸出)	(30)	(58)	(113)	(60程度)	(125程度)	(27)	(55程度)	(120程度)
鋼材 販売単価 [千円/t]	126.5	134.5	140.1			139.2		
鋼材 輸出比率	24.1%	23.4%	22.6%			21.1%		
アルミ板 販売数量 ※3 [千t]	86	170	337	180程度	370程度	84	170程度	350程度
(国内)	(62)	(119)	(232)	(130程度)	(260程度)	(60)	(125程度)	(255程度)
(海外)	(24)	(51)	(105)	(50程度)	(110程度)	(24)	(45程度)	(95程度)
アルミ押出 販売数量 ※3 [千t]	9	17	34	20程度	44程度	8	18程度	41程度
(国内)	(7)	(14)	(27)	(14程度)	(32程度)	(6)	(14程度)	(31程度)
(海外)	(2)	(4)	(8)	(6程度)	(12程度)	(2)	(4程度)	(10程度)
銅板 販売数量 ※2 [千t]	13	27	54	30程度	62程度	12	26程度	58程度
溶接材料 販売数量 ※3 [千t]	64	125	248	125程度	255程度	61	120程度	245程度
(国内)	(26)	(52)	(105)	(50程度)	(105程度)	(25)	(50程度)	(105程度)
(海外)	(38)	(74)	(143)	(75程度)	(150程度)	(36)	(70程度)	(140程度)
油圧ショベル 販売台数 ※4 [千台]	5.7	11.9	24.6	13.5程度	28.0程度	5.6	12.5程度	27.0程度
(国内)	(1.4)	(3.4)	(7.6)	(3.8程度)	(8.5程度)	(1.5)	(3.8程度)	(8.5程度)
(海外)	(4.3)	(8.5)	(17.0)	(9.7程度)	(19.5程度)	(4.1)	(8.7程度)	(18.5程度)
クローラークレーン 販売台数 ※3 [台]	76	145	289	160程度	330程度	45	150程度	340程度

※1：単体ベース、高砂製作所の電炉の生産数量を含む

※2：単体ベース

※3：連結ベース

※4：連結ベース、ミニショベルを含む

(単位：億円)

鉄鋼	2022年度実績				2023年度見通し			
	1Q	上期	下期	通期	1Q実績	上期	下期	通期
鉄鉱石	30	50	△70	△20	35	25	0	25
石炭	35	△30	5	△25	△10	△20	15	△5
キャリーオーバー	65	20	△65	△45	25	5	15	20
総平均	180	165	15	180	△40	△20	△5	△25
低価法	△20	△15	△10	△25	5	△5	0	△5
在庫評価影響	160	150	5	155	△35	△25	△5	△30

アルミ板	2022年度実績				2023年度見通し			
	1Q	上期	下期	通期	1Q実績	上期	下期	通期
総平均	40	55	10	65	15	0	15	15
低価法	0	0	△10	△10	0	10	0	10
在庫評価影響	40	55	0	55	15	10	15	25

素形材	2022年度実績				2023年度見通し			
	1Q	上期	下期	通期	1Q実績	上期	下期	通期
総平均	25	25	5	30	10	5	△10	△5
低価法	△5	△5	5	0	0	0	0	0
在庫評価影響	20	20	10	30	10	5	△10	△5

(単位：億円)

		2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し (前回)	2023年度 見通し (今回)
	営業キャッシュフロー	214	2,100	1,816	698	950	1,050
	投資キャッシュフロー	△1,334	△819	△1,250	△700	△800	△700
	プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー	△1,120	1,281	566	△2	150	350
プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー		△1,919	529	72	224	650	850
プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高		1,349	3,018	2,432	1,454	1,100	1,100

		2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し (前回)	2023年度 見通し (今回)
設備投資：計上額		2,398	1,850	1,081	973	1,350	1,350
設備投資：支払額		2,453	1,732	1,564	989	1,100	1,100
減価償却費		1,053	1,008	1,051	1,125	1,200	1,200

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し（前回）	2023年度 見通し（今回）
1株当たり当期純損益	△187.55円	64.05円	160.23円	183.80円	253.21円	303.86円
有利子負債	9,066億円	9,878億円	9,084億円	8,618億円	8,200億円	8,000億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,844億円	7,857億円	6,551億円	5,905億円	5,750億円	5,550億円
D/Eレシオ ※1	※2 1.19倍	※3 1.11倍	※4 0.80倍	0.65倍	0.60倍程度	0.60倍程度
ROS ※5	△ 0.4%	0.9%	4.5%	4.3%	4.9%	5.6%
ROA ※6	△ 0.3%	0.6%	3.5%	3.8%	4.5%	5.0%
ROE ※7	△ 9.7%	3.4%	7.9%	8.4%	10.5%	12.5%
ROIC ※8	0.9%	1.1%	4.7%	4.9%	6.0%	6.7%

※1：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※2：前倒し調達（621億円）含む。前倒し調達除く2019年度D/Eレシオ：1.10倍

※3：前倒し調達（1,862億円）含む。前倒し調達除く2020年度D/Eレシオ：0.84倍

※4：前倒し調達（1,011億円）含む。前倒し調達除く2021年度D/Eレシオ：0.68倍

※5：売上高経常利益率

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※8：税引後事業利益/投下資本

	2022年度実績				2023年度 (前回) 通期	2023年度 (今回)		
	1Q	上期	下期	通期		1Q	2-4Q	通期
USドル (円/\$)	129.6	135.3	136.7	136.0	130.0	136.5	135.0	135.4
中国元 (円/元)	19.6	19.9	19.5	19.7	19.0	19.6	20.0	19.9
ユーロ (円/€)	138.1	139.1	144.1	141.6	140.0	147.9	148.0	148.0

【為替の感応度分析】

USドル1円 円安に伴う今後の業績影響

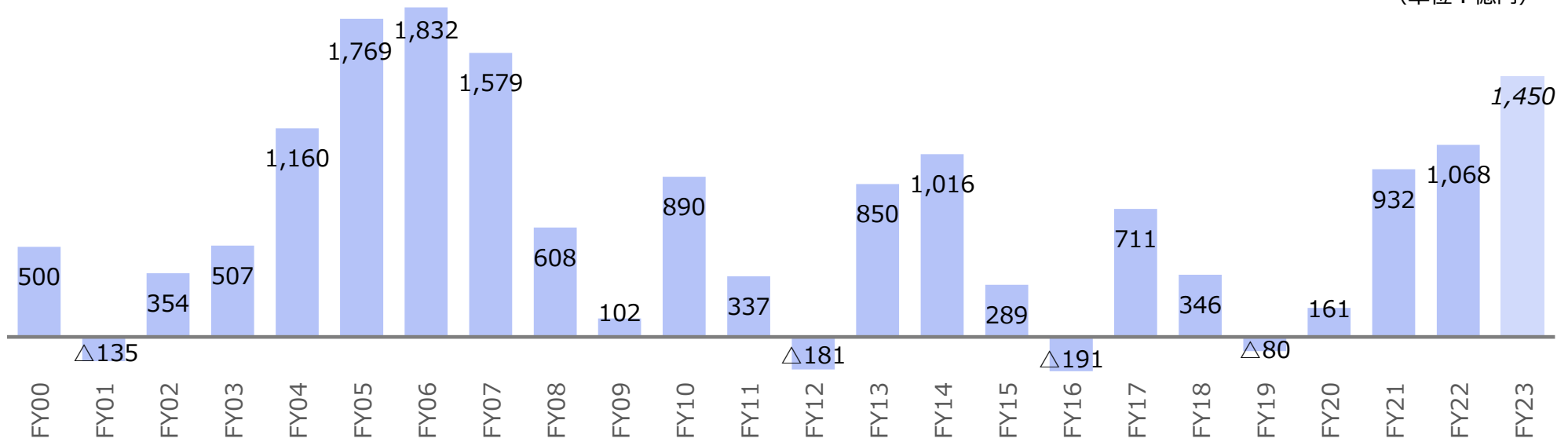
- 鉄鋼 : Δ 8億円程度 (ドルバランスの影響 Δ 12億円、在庫評価影響・販売価格への転嫁等 + a億円)
- 建設機械 : + 3億円程度

ユーロ1円 円安に伴う今後の業績影響

- 建設機械 : + 3億円程度

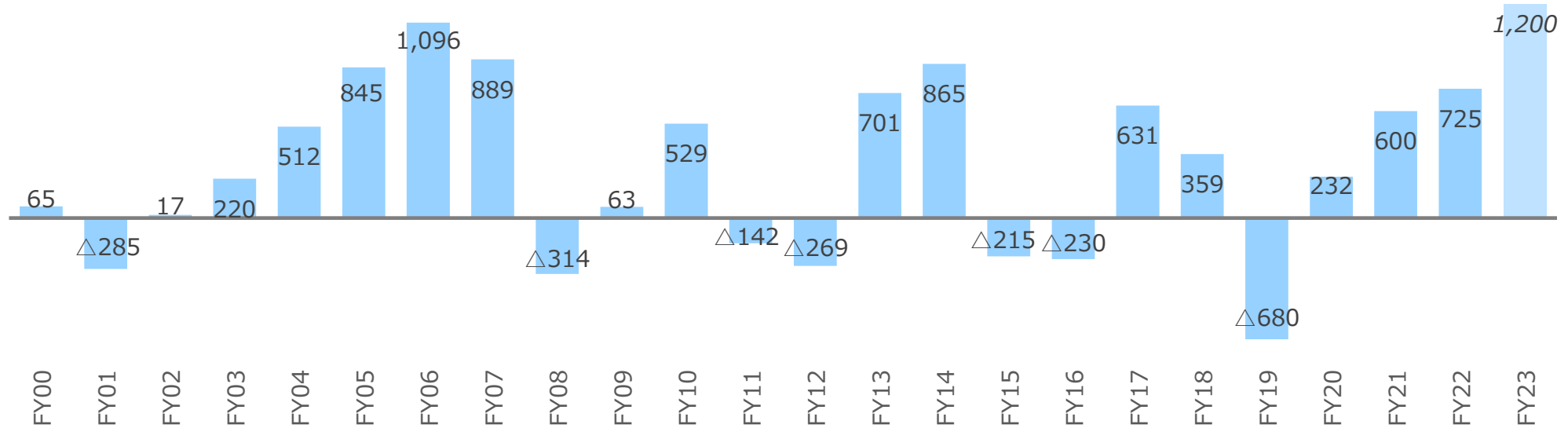
【経常損益】

(単位：億円)



【親会社株主に帰属する当期純損益】

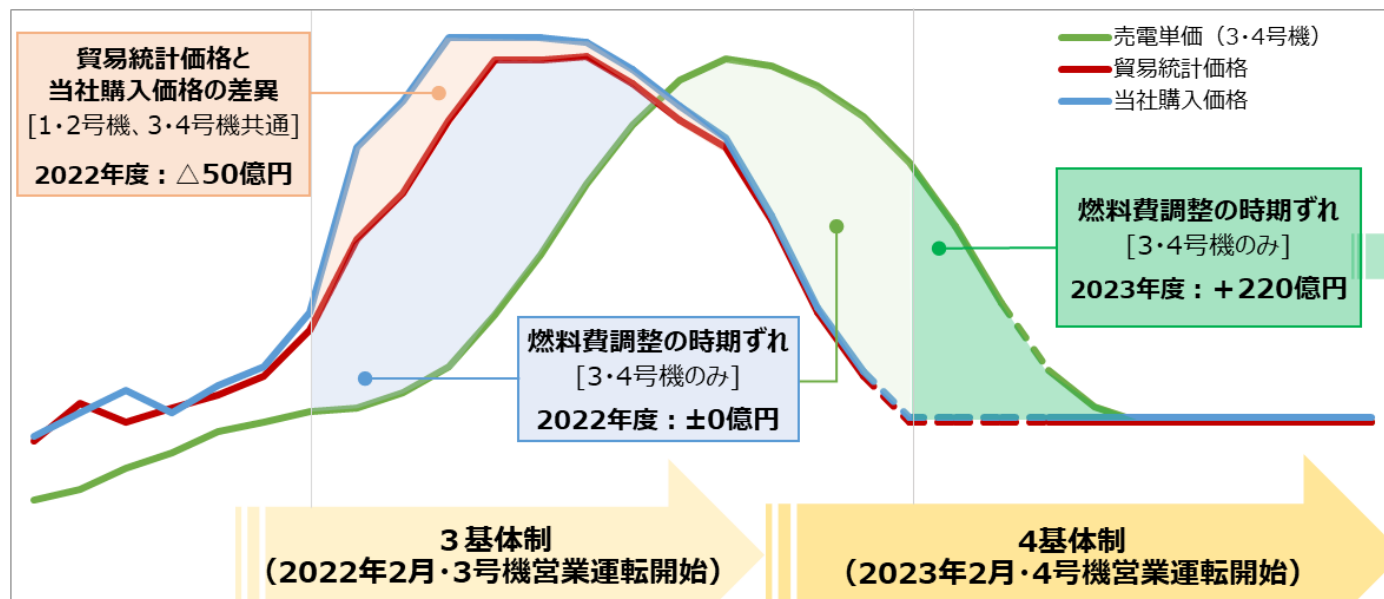
(単位：億円)



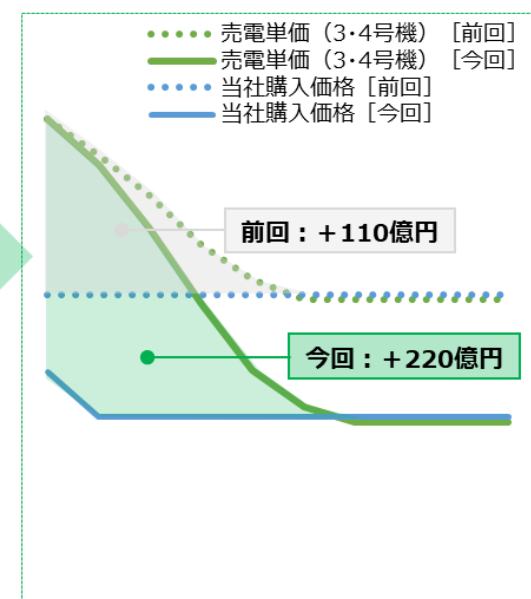
- 当社の石炭火力発電子会社（以下、当社）が受領する燃料費相当の電力量料金は、**契約時の設定燃料費に、石炭の輸入貿易統計価格（全国平均値）の契約時からの変動代を調整して計算される。**
- 2022年度は、電力他社での一部銘柄の固定価格契約（その後の市況高騰に伴い値差が拡大）や入着ずれと推定される**一過性影響により、貿易統計価格が押し下げられた関係で当社の売電単価が低く抑えられ、損失が発生した。**
【2022年度実績：一過性影響△50億円】
- 2023年度においては、**一過性影響の解消に加え、一般炭市況の下落に伴い、神戸発電所3・4号機において、燃料費調整の時期ずれによる益**を想定している。尚、前回見通しからの差異については、一般炭市況が更に下落していることから、燃料費調整の時期ずれによる益の拡大を想定している。

【2023年度見通し：燃料費調整の時期ずれ+220億円（前回比+110億円）】

「石炭貿易統計価格と当社購入価格の推移（イメージ）」



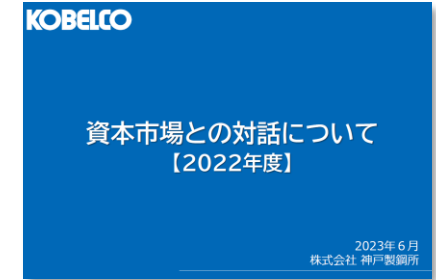
「前回見通しとの差異（イメージ）」



資本市場との対話

当社は持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて、資本市場との対話を積極的に行っており、その内容を、ホームページに開示しています。

[capital_markets_22.pdf \(kobelco.co.jp\)](https://www.kobelco.co.jp/capital_markets_22.pdf)



社会からの評価（主なもの）

◆FTSE4Good Index Series (2021年6月～)



FTSE4Good

◆FTSE Blossom Japan Sector Relative Index (2022年3月～)



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

◆FTSE Blossom Japan Index (2021年6月～)



FTSE Blossom
Japan

◆MSCI JAPAN ESG SELECT LEADERS INDEX ※ (2022年6月～)

2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX

◆MSCI JAPAN EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN) ※ (2022年12月～)

2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

◆CDP (2020年12月～)



「気候変動」で「A-」の評価を
3年連続で獲得

※THE INCLUSION OF KOBE STEEL, LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF KOBE STEEL, LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI.

MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



当社は「あしたにいいこと、KOBELCOと。」をキャンペーンメッセージとした新たな企業CMを制作し、7月25日より特設サイトやYouTube公式チャンネルにて公開しています。

KOBELCOならではの多様な人材・事業・技術のかけ算を通じて、社会課題の解決に挑み、ステークホルダーの皆様にとって「かけがえのない存在」であり続けることを目指すとともに、こうした私たちの姿勢や思いをより多くの皆様に届けていきたいと考えています。是非ご注目ください。

映像／特設サイト リンク先URL

「あしたにいいこと～技術のかけ算～篇（1）」（30秒Ver.）：
<https://youtu.be/JnvdWCODWVI>

「あしたにいいこと～技術のかけ算～篇（2）」（30秒Ver.）：
https://youtu.be/u_h_x94HokY

メイキング映像：<https://youtu.be/3KIt6SOW-vE>

特設サイト：<https://www.kobelco.co.jp/special-contents/>

KOBELCOが 実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
	安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの 使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命
	個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつづける。
KOBELCOの 3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの 6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重

品質憲章

将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化